

## 〔平成28年度事業報告〕

### 1 調査研究事業

医療、保健衛生等の分野における各種の在宅医療・介護等について、次のとおり調査研究を行った。

#### (1) 在宅介護実態調査

神戸市医師会に委託して、神戸市医師会員が主治医として診察している在宅長期寝たきり者について、次のとおり実態調査を行った。

##### ア. 回答集計

在宅長期寝たきり者（平成28年7月1日現在、6か月以上寝たきり又はそれに準じる者）

総 数 1, 986人（男性 626人、女性1, 360人）

（平均年齢 82. 5歳（男性78. 2歳、女性84. 5歳））

##### イ. 医療の対象である主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	458人（23. 1%）
② 認知症	288人（14. 5%）
③ 高血圧症・心疾患	269人（13. 5%）

##### ウ. 「寝たきり」の原因となった主たる病名

① 脳梗塞及び脳出血後遺症・脳血管障害	470人（23. 7%）
② 廃用性症候群	372人（18. 7%）
③ 変形性関節症による運動障害	266人（13. 4%）

##### エ. 在宅で行っている医療行為（複数回答可）

① 胃瘻（空腸瘻含む）による経管栄養	209人（10. 5%）
② 褥瘡などの創傷処置	182人（ 9. 2%）
③ 尿道留置カテーテル	178人（ 9. 0%）
④ 皮膚病変の処置、管理	169人（ 8. 5%）

##### オ. 医学的見地から、より充実させるべき医療行為（複数回答可）

① 訪問リハビリテーション	546人（27. 5%）
② 入院のための病診連携	451人（22. 7%）
③ 他科医師との連携	417人（21. 0%）
④ 訪問看護	359人（18. 1%）

##### カ. 現状で不足していると思われるサービスの種類（複数回答可）

① なし	764人（38. 5%）
② 短期入所療養介護（ショートステイ）	388人（19. 5%）
③ 訪問リハビリテーション	308人（15. 5%）
④ 訪問看護	226人（11. 4%）
⑤ 訪問介護（ホームヘルパー）	198人（10. 0%）

キ. 主として介護している人

① 子供（女）	425人（21.4%）
② 配偶者（女）	322人（16.2%）
③ 親族以外の人（女）	322人（16.2%）
④ 子供（男）	249人（12.5%）

(2) 神戸リハビリテーション病院退院患者調査

病院退院先の推移

(単位：人)

年度	退院患者数	家庭	病院	老人保健施設	老人福祉施設	その他
26	661	460	104	74	2	21
27	649	455	108	67	3	16
28	677	472	86	72	13	34

家庭復帰した退院患者のうち、居宅介護サービス等を利用する方について、担当のケアマネジャーに対し、在宅生活における状況等の調査を行った。

回答総数 168件（依頼数169件）

ア. 退院前の主な疾患

①脳血管疾患	101件（60.1%）
②整形疾患	58件（34.5%）
③脊髄疾患他	9件（5.4%）

イ. 急性増悪の有無

①増悪なし	162件（96.4%）
②増悪あり	4件（2.4% 骨折、心不全等）
③不明	2件（1.2%）

ウ. 機能低下の有無

①機能低下なし	127件（75.6%）
②機能低下あり	39件（23.2% 認知機能、歩行機能など）
③不明	2件（1.2%）

エ. 退院前カンファレンスの参加有無

①参加した	140件（83.3%）
②参加しなかった	23件（13.7%）
③不明	5件（3.0%）

(3) 神戸リハビリテーション病院入院患者の口腔調査研究

神戸市歯科医師会に委託し、平成28年度に、歯冠修復、欠損補綴を完了した入院患者29名(表1)に対して舌圧測定を実施した。その患者の中から脳血管疾患患者27名(表2)を抽出し、健常者36名(表3)との舌圧測定値の比較を行った。

ア. 機能評価方法

機能評価は JMS 社製舌圧測定器を用い、プローブ先端にあるバルーンを舌と口蓋の間に入れ

てバルーンを舌で押さえることで、各患者の舌圧を測定した。

表 1 (被験者 29 名)

平均年齢	73.9 歳
疾患名	CI : 19 名、ICH : 3 名、SAH : 5 名 CSH : 2 名
咬合(アイヒナーの分類)・義歯	上顎 FD : 3 名 下顎 FD : 5 名 PD : 3 名 PD : 6 名
舌圧平均値	22.06 kPa

\*被験者 : (男 18 名 / 女 11 名・41 歳～92 歳)

\*CI : 脳梗塞 ICH : 脳出血 SAH : くも膜下出血 CSH : 硬膜下血腫

\*FD : 総義歯 PD : 部分床義歯

表 2 (被験者 27 名)

脳血管疾患患者平均年齢(歳)	75.4 歳
舌圧平均値	21.7 kPa

\*被験者 (男 17 名 / 女 10 名・49 歳～92 歳)

表 3 (被験者 36 名)

健常者平均年齢(歳)	30.39 歳
舌圧平均値	39.2 kPa

\*健常者 : リハビリテーション職員 36 名(男 18 名 / 女 18 名・21 歳～60 歳)

## イ. 考察

脳血管疾患群と健常者群との舌圧について、スチューデント T 検定を用いて有意差検定を行った結果、有意差があると判断された。しかし、今回の調査において対照群では年齢が 21 歳から 60 歳でほとんど若年層であったことに対し、表 2 脳血管疾患群では 49 歳 1 名を除くと 60 歳から 92 歳で殆どが高齢者であることが遠因にあると考えられる。文献では、70 歳以上の舌圧は、20 代から 60 代の舌圧に比して有意に低いと報告されている。さらに対照群として高齢者の数を増やす必要があると思われる。

脳血管疾患群患者の全粥食、軟菜食、麻痺中程度ありでは、舌圧が特異的に低い例も見られた。舌圧強化訓練によって摂食嚥下障害改善、誤嚥性肺炎防止に寄与すると思われる。また、脳血管疾患群の中で舌圧が高い例では、年齢 40 代麻痺なし、義歯必要なし、アイヒナーの分類 A1 であった。脳血管疾患麻痺なし、臼歯部咬合あり、A1A2 若年層では舌圧は高い。誤嚥性肺炎防止の為、麻痺と食事、舌圧と奥歯臼歯部咬合と嚥下機能の関与を調査する意義がある。